



saishoji.info

さいしゅうじ
西照寺宗派 真土
浄願寺

令和7年1月 第91号

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

元日

元龍谷大学講師

辻本 敬順

新年、おめでとうございます。

「一年の計は元旦にあり」という

諺があります。皆さんは、今年、

どんな計をお立てになったのでしょ

うか。「今年から日記をつけよう」

「今年から禁煙をしよう」「今年か

ら禁酒をしよう」などなど……。

しかし、あまり成功した試しがない

のです。皆さんはどうですか。

この諺は正式には、

一日の計は朝にあり、

一年の計は元旦にあり

と言います。一日をどう過ごすか

という計画は朝に、一年を通して

どう過ごすかという計画は元旦に

立てるのがよい。何事にも初めが

肝心で、初めに周到な計画を立て

準備をするべきである、という意味

の諺です。

中国には、

一年の計は春に存り、

一生の計は勤（勤め）に在り、

一日の計は寅（早朝）に在り

という文があります。ここでいう「計」

は「生計」のことで、「二年の生計は春

の耕作にかかっている。もし、春に耕さ

なかつたならば、秋の収穫は望めない。

同じように、一日の生計は早起きに、

一生の生計は若いときの勤勉にかかつて

いる」というのです。

お釈迦さまの弟子サミッディは、

王舎城の温泉精舎にいました。そこへ天

人がやつて来て、「お釈迦さまに『一夜

賢者の偈』を教えてもらえ」と言いま

す。その偈が『大迦旃延一夜賢者経』

にありました。

過去を追うな。

未来を願うな。

過去はすでに捨てられ、

未来はまだ来ない。

だから、ただ現在のことを

ありのままに観察し、

動揺することなく、

よく理解して、実践せよ。

ただ今日すべきことを熱心になせ。

明日、死のあることを誰が知ろうか。

かの死神の大軍と

会わないわけはない。

このように考えて、熱心に

昼夜おこたることなく励む人、

このような人を一夜賢者といい、

寂静者、寂黙者と人はいう。

『阿弥陀経のことばたち』三六頁 参照

新しい年を迎えて、こころ新たに決意

を固めるのはたいへん素晴らしいことです

が、それを実行するのは、今日一日の

生き方にかかっているようです。一年は

一日一日の積み重ねですね。

『行税法話集 人生の折々に』（本願寺出版社）より引用

令和五年一月に、山門前の伝道掲示板へ、

【「今年こそ」は「今日こそ」の 積み重ね】

と書きしました。併せてご紹介いたします。住職



saishoji.info

さいしゅうじ
西照寺宗派 真土真願
浄土真宗

第92号 令和7年2月

プンダリーカ

びやくれんげ
—白蓮華—

恩師のまなざし

本願寺派 司教 武田 一真

これは利井明弘先生にお聞かせいただいた話ですが、お父様の利井興弘先生の三回忌のときのことです。お寺さんもたくさん集まってくられ、大坂のご自坊でご法要が勤まりました。ご法要が終わりました、みなでお齋をよばれましょうという場面になりました。お齋の準備は、ご門徒のあるお婆ちゃんが指揮をとってご準備くださったようです。みな席につきまして、明弘先生が「きようはみなさん、ありがとうございます。父もご往生させていただいて、三回忌を迎えました。きようは懐かしいお話など聞かせていただきたく思います」とご挨拶をされまして、食前のことを唱和して、合掌して「いただきます」とお弁当箱のフタをとるわけですが、

そのときあちこちから「あつ」と声が上がったそうです。なかはバラ寿司だったそうです。亡くなられた興弘先生はたいへん有り難い方であつたそうですが、同時に厳しい方でもあつたようです。お仏事するときお肉やお魚、雑のものを許される方ではなかったわけですね。みんなよく知っておりましたから、当然今日はお精進だと思つていたわけですが、バラ寿司だったわけで、卵や穴子や、かまぼこなどがのつていたのでしよう。「あつ」と声があがる。その声を聞いて、調理場におられたそのお婆ちゃんが飛んでこられて、みんながもらえる前で、畳にひたいをこすりつけるようにして、「申し訳ございませんでしたー！」と仰つたそうです。何か手違いがあつたのだらうな、ということはすぐわかりましたので、「まあまあ、こういうこともありますから、いいですよ」とみんなお婆ちゃんをなだめたそうで

ですが、お婆ちゃんは「申し訳ございません！すべて取り換えさせます」と一歩も引かれなかったそうです。そう言いましても、みんなもう席についているわけですから、どうにもなりません。押し問答になり、みかねた施主の明弘先生が、「まあまあ〇〇さん、父もきびしい人やつたけど、もう亡くなつて、今日は三回忌や。きようはこれでええにしましょうや」と気を遣つて言われました。するとお婆ちゃんは一言、「お亡くなりになられた、いうことは、今ここにおられる、いうことですね！こんなに恥ずかしい話はありません！」と仰つたそうです。（中略）お婆ちゃんは、目には見えないけれども、「なんまんだぶつ」「なんまんだぶつ」このお念仏の声のなかに、仏さまとなつて還りきたつて、寄り添いつづけ、導きつづけ、見守りつづけてくださつてある先生と、ともに生きておられたということでありましょう。

『情をもつてねがいて趣入すべし』（藤鷲会）より引用

掲載文字数の関係で、一部を中略してご紹介しています



saishoji.info

さいしゅうじ
西照寺宗派 真土真願
浄土真宗

第93号 令和7年3月

プンダリーカ

びやくれんげ
—白蓮華—

人生の日暮れ

本願寺派 勸学 深川 宣暢

私も少し年をとりましたから時々、寝ながら考えます。布団か

ぶりながら、このまんま、目が覚め

なんたらどうしよう、どうなるだ

ろうか、ちよつと準備しておかない

かんことあるな、こういろいろ考え

ながらも、でもよく考えたら、生

まれてきた時には何にも持たずに

真つ裸で生まれてきたじゃないか。

その間には、いろんなものを着せて

もううたり、脱がせてもううたり。

今度は自分で着るようになり、脱

ぐようになり。あるいは柱を立て

て屋根を葺き、そうやっていくけ

れども、終わっていくときには、ま

た何にも持たずにたった一人で真つ

裸で終わっていくのですよ。これが

我々のすがたですよ。生きている

間の人生が良からうが悪からうが、

立派なことをしようがすまいが、人から褒められようが褒められまいが、全く無関係に、たった一人で出かけねばならんのが私どもです。

でも、良かったですね。私どもは一人

じゃないですよ。あなたが生まれる前

も、生きている今も、そして死んでいつ

た先も、「私はあなたとともにあるので

すよ」というナンマンダブツの如来様が、

私に届いてくださるのです。（中略）

「親のない子は磯辺の千鳥 日暮れ

日暮れに袖しぼる」という歌がありま

す。親のない子、世の中では一人子、

孤児、みなしごなどと言われますが、

その子であつても、昼間のうちは近く

の子どもたちを集めて、あつちへ遊び、

こつちへ遊びと、ちよつと千鳥が群れを

なしてチーチーチーと飛びまわっている

ように過ごしておるけれども、その子

が寂しいのは日暮れです。夕暮れです。

親のあるところからは声がかかる。さ

あ早う帰っておいで、ごはんにするぞ、早う帰ってお風呂に入りなさいと、声がかかるが、親のない子がおつたとすれば、その子は誰が呼んでくれるのか、誰が待っていてくれるのか、誰が私を育ててくれるのだろうか。その子が寂しいのは

日暮れだという歌です。「日暮れ日暮れ

に袖しぼる」という、千鳥が虫をつむい

でいるのか知らんけれども、それが泣いて

いる姿に見える、という歌ですね。

人生の日中には、あるいは人を引き連

れ、あるいは人の上に立つて、あるいは

友人たちと一緒にあつちへ遊びこつちへ遊

びするかもしれないけれども、もし本当の

親様を持たないならば、寂しいのは日暮

れですよ。人生の日暮れは寂しいぞとい

う歌です。私どもは如来様がおいででよ

かった、親様を持つててよかったですね。

『情をもつてねがいて趣入すべし』（藤鷲会）より引用

掲載文字数の関係で、一部を中略してご紹介しています

※文中にある歌は以前に作られたものであ

り、現在は児童養護施設等が充実し、子

ども達の暮らしも支援されています。住職



saishoji.info

さいしゅうじ
西照寺浄土真宗
本願寺派

令和7年4月

第94号

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

お釈迦さまの像がない？

本願寺派 勸学 内藤 知康

浄土真宗の教えは、阿弥陀さま一仏に帰命し、他の仏・菩薩には帰命しないというものです。しかし、それはお釈迦さまをないがしろにしているということではありません。

浄土真宗において、お釈迦さまと阿弥陀さまとの関係は、いろいろに考えられます。たとえば、お釈迦さまのお仕事は教えるということであり、阿弥陀さまのお仕事は救うということ。お釈迦さまが何を教えられるのかというと、「一切の生きとし生けるものを救おうという願いを発し、その願いを完成させた阿弥陀さまというお方がおられるよ」ということを教えられるのです。言い換えますと、「阿弥陀さまに帰命しなさい」と教えられるのです。私たちが阿弥陀さま一仏に

帰命するのは、お釈迦さまの教えにしたがっているのですから、決してお釈迦さまをないがしろにすることにはなりません。（中略）

親鸞聖人がいただかれた阿弥陀さまの他力の救いは、私たちの力が役立つのではなく、ただ阿弥陀さまの力のみによって救われるというものでした。つまり、迷いから悟りへ歩むのに役立つものを何一つとして持っていないものが救われる教えです。浄土真宗では、阿弥陀

さま以外の仏さまにはこのような救いできないといただいています。お釈迦さまの教えも、阿弥陀さまの救いについて以外の教えは、自分の力を役立たせて悟りへ向かって進むというものばかりです。

このような救いを成り立たせている阿弥陀さまの願いは他にありませんので、親鸞聖人は、「越世希有」つまり、「世に超えてまれな」と仰いでおられます。

ですから、自分の力ではどうにもならない私たちが阿弥陀さまに帰命し悟りに至ることができるようになつてこそ、お釈迦さまに本当に喜んでいただけます。このこそがお釈迦さまの願いに本当に応え、お釈迦さまの願いを大事にすることなのです。

親鸞聖人はまた、お釈迦さまというお方は、私たちが救うために、阿弥陀さまがこの世界におすがたを現されたお方であるといただいております。つまり、お釈迦さまは、そのまま阿弥陀さまだということなのです。

まとめてみますと、弥陀一仏への帰命は、お釈迦さまの教えにしたがうということであり、またお釈迦さまの像を安置しないのは、お釈迦さまがそのまま阿弥陀さまであるからなのです。

『どうなんだろう？ 親鸞聖人の教えQ&A』（本願寺出版社）より引用
掲載文字数の関係で、一部を中略してご紹介しています
※四月八日は、お釈迦さまがご誕生になられた日「仏生会（花まつり）」です。住職



saishoji.info

さいしやうじ
西照寺宗派 真土
浄願寺

第95号 令和7年5月

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

光いっぱいにしていく責任者

兵庫県東光寺 元住職 東井 義雄

皆さん、東昇先生という先生の

お名前、聞いたことありませんか。

京都大学の名誉教授で、一ミリの

百万分の一、こんな小さな世界を

研究していらつしやる先生です。日

本ではじめて電子顕微鏡をおつくり

になった先生です。

この東先生がね、猫は生まれてす

ぐ人が育てても猫に育つ。犬は生ま

れてすぐ人が育てても犬に育つ。と

ころが、人間は人間の子に生まれ

たからといって、人間に育つとは決

まっていない。今日の学者の定説で

は、約五千通りの可能性を持って

生まれてくるとおつしやつているん

です。

東先生のそのお言葉を讀ませてい

ただきながら、思い出しましたのは、

今から五十年あまり前、インドの

山奥で、狼の住んでいるほら穴から、

二人の人間の女の子が発見されました。

狼が、赤ん坊をさらつていつて、穴の中

で育てていたんです。

小さな赤ん坊を育てて、ずいぶん長

い間育てられたんでしょう。推定八つば

かりになつていたんですが、人間の世

に連れ戻されて、一生懸命人間に育て

る教育をやったんですが、とうとう二

人とも、人間に戻りきることができな

いで亡くなつてしまいました。真つ暗闇

の中でも、目がらんらんと光つて、何で

も見える。何十メートル先にある餌が、

鼻でわかる。

餌があるぞということがわかります

と、八つばかりになつていたその女の子

も、二本の足で立つこともできないもの

ですから、四つ足で、ものすごい勢いで、

飛んでいつても、手を使うことができま

せん。貪り喰う。夜中の一定の時刻に

なると、遠吠えをやる。人間に生まれ

ても、狼が狼の暮らしの中で育てると人
間の子も狼になる可能性さえ持つてい
るんですね。（中略）

その五千通りの可能性の中からね、ど

んな自分を取り出していくか。皆さん

一人ひとりがその責任者なんですよ。

皆さんこんなたくさんいるように見えま

すけどね、自分は一人しかいない。

大阪のNHKから招かれて出向しまし

た。国鉄大阪駅の地下を歩いてますと

ね、たくさんの方が、ぎつしり歩いている。

その時に感じたんですが、同じ人は一人

もいないんですね。皆さん一人ひとり違

うんですね。こんなにたくさん人がいる

のに、同じ人が一人もいない。

その時はつと気付いてみたら、私も世

界でただ一人の私なのだということとし

た。その世界でただ一人の私を、どん

な私に仕上げていくか。その責任者が

私であり、皆さん一人ひとりなんです。

『正直者からは正直者の光が』（探究社・法蔵館）より引用

掲載文字数の関係で、一部を中略してご紹介しています

また、当時の呼称のまま掲載をしています



saishoji.info

さいしゅうじ
西照寺宗派 浄土真宗
本願寺

第96号 令和7年6月

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

故人の思い出に聞く

龍谷大学 名誉教授 浅井 成海

親鸞聖人が八十八歳の時、乗信房にあてたお手紙の中に、故法然聖人の仰せとして、浄土宗の人は愚者になりて往生す

〔註釈版聖典〕七七一頁

と書いておられます。

親鸞聖人が法然聖人と生き別れとなられたのは三十五歳の時です。から、すでに五十年余りもたつていました。

しかし、八十八歳となられてなお、いきいきと法然聖人の言行を記録しておられるということは、常に法然聖人に遇い続けられたのだと言えましょう。

お念仏申し、お念仏に聞くとともに、常に故人と会話し、出遇つていかれたとみることができます。

「お念仏に聞く」とは何を聞かせ

ていたでくことでしょうか。

善導大師のお言葉に「二河白道」のたとえがあります。それは、お釈迦さまと阿弥陀さまのお勧めによつて「浄土のみ教えを依りどころとせよ」と喚びかけてくださることなのです。また、み仏さまの大慈悲心に遇い、み仏さまが私に尽くしてくださるいろいろな手だてをお教えくださることなのです。

親鸞聖人はお念仏の喚び声の中に、法然聖人の言行と出遇つていかれました。そして、法然聖人は阿弥陀さまの化身で、勢至菩薩が法然聖人となつて私にみ教えを伝えてくださつた、と受けとめられたのでした。

最近、同居しておられたお義母さんを亡くされた方から、「長年生活をともししてきましたので、義母の思い出は尽きません。浄土真宗では義母が私たちのところに還つてきて、私たちを導いてくださるという還相回向の教えを説

きますが、どのように聞かせていただきたらよいのでしょうか」と少し涙ぐみでのご質問を受けました。

私は「お念仏申させていただき、お念仏を聞かせていただく中に、いろいろと会話をしたり、思い出させていただくことではないでしょうか」と申し上げました。

「あんなこともあつた。こんなこともあつた。あのようにも話していたな」と故人への思い出は尽きませんが、常に故人と会話し、故人を偲ぶということは、帰するところはお念仏に聞くとところからお教えいただけます。

もちろん、特に故人の日常の言行を想い出すというよりも、み教えにかかわるいろいろな思い出をよみがえらせることになります。（中略）

お念仏に聞く生活の中で、今は先人のほたらきを還相の菩薩の姿として聞かせていただくのです。先人より一つ一つお教えいただいています。

『浄土真宗 やわらか法話2』（本願寺出版社）より引用

掲載文字数の関係で、一部を中略してご紹介しています



saishoji.info

さいしやうじ
西照寺宗派 真土
浄願寺

令和7年7月

第97号

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

念仏の申される人生

本願寺派 勸学 梯 實圓

法然聖人が、「この世のすぐべきよ
うは、念仏の申されるようにすぐべ
し」と言われています。「お念仏の
申される人生ならば、どんな生き
方をしようと、すばらしい人生で
ある」と言われています。「その人
その人によつて、どんな生き方をす
るかはみんな違う。それぞれ生き
られるように生きればいいのだ。し
かしその中で、お念仏が申せる人
生、お念仏に統合された人生を生
きなさい。如来さまに喚び覚まさ
れながら、導かれる人生を生きる
ことが尊いのだ」と言われています。
「お浄土へ往くのだから、この世は
どうでもいい」とは言わない。病氣
をした時に、「お浄土参りを目指
している人間が、薬を飲んでもいい
のですか」と法然聖人にたずねた

人がいました。そう聞かれた時、法然
聖人は、「お念仏の申せる体を大事に
しなさい」とおっしゃっています。仏さ
まの教えを確かめていく人生は大切な
道場であるというのでしよう。お念仏
の申せる体をいとわなければならぬ。
そのためには、薬も飲みなさい。身体
も大事にしなさいとおっしゃっています。
「欲を起こすための体を養うのとは違
う。腹を立てるための体を養っているの
とは違う。み教えを聞き、お念仏の申
せる体を養っているのだ」と法然聖人は
おっしゃっているのです。

このあたり、念仏の人生という一本の
筋がきちつと通っていますね。できれば
そのように思つたほうがいい。「なぜ薬
を飲むのか」と聞かれたら、「お念仏
を相続させていただくのだから、薬を
飲まなければ」と言うのですよ。です
から、死に急ぎすることはないので。
教えに呼び覚まされる人生は楽しいも
のです。また死すべき時が来れば、受
け容れればよろしい。さとの開けるご
縁として、死をありがたく受け容れれ
ばよろしい。その時、死は空しい亡びで
はなく、真実に目覚めた仏陀としての
誕生の意味を持てきます。

生きるということは、仏さまのみ教え
に導かれながら、極楽に生まれて往く、
浄土に生まれて往く人生を生きていく
ことです。死ぬことは、浄土が開けるご
縁である。となりますと、生きること
も死ぬことも一つの念仏に統合された、
「生死を超えた生」になります。その
ような人生を生きていくことが、「往生
極楽のみち」というものです。それを
はつきりと聞き質し、それさえはつきり
としていけば、あとは何が起ころうとも、
それはその時その時解決すればいいので
す。人生の一番の根幹は、生と死を包
む一貫した道を確かめていく、それが
一番大事なことです。



saishoji.info

さいしやうじ
西照寺宗派 真土真願
浄土宗

令和7年8月 第98号

プンダリーカ

びやくれんげ
一白蓮華一

叱られた恩を忘れず墓参り

相愛大学 学長 釈 徹宗

「叱られた恩を忘れず墓参り」とは、奥行きのある心情が伝わる、なんとも言い難い味わいを感じさせる川柳ですね。まず「叱られた恩」と語るところに妙味があります。我々は、なかなか「叱られた恩」などといった気持ちになれませんからね。

「恩」という漢字は、先人からのめぐみや慈しみを表しているそうです。「因」は、敷物の上に、人が両手両足を広げて、全身でめぐみや慈しみを受けている姿からできているとのこと。

「叱られた恩」とは、叱られたことがめぐみや慈しみであると語っているのです。これは「叱った方が、本当に相手を思つて叱った」と「叱られた方が、叱つてもらつて有難かつた」との、二つが合わさらないと成り立たない

事態だと思っています。

仏典に出てくる「恩」という言葉ですが、サンスクリット語のクリタの翻訳語として使われます。クリタは、へ先人が私のためにしてくださったこと」といった意味になります。また、クリタジニヤという用語もあります。これはへ先人が私のためにしてくださったことをしっかりと受けとめる」というような言葉ですので、「知恩」と訳されています。

日本仏教には、「知恩報徳」といった教えがあります。この場合の「徳」はへ周りに与える良い影響」といったところです。つまり、「知恩報徳」は、先人から私へと出されたパスをきちつとキャッチして、そして私の周りへとパスを出していく、そんな態度のことになります。

私の友人に有名な元ラグビー選手がおります。もう現役を引退して、大学の教員をしています。その友人が、「ラグビーボールは楕円形なのでとても扱いが難

しい。その扱いが難しいものを、丁寧にパスをつないでいくところにラグビーの魅力と喜びがある」と言っていました。「心のこもったパスと、雑に出したパスは、キャッチした時にわかる」のだそうです。

先人から出た仏法というパスをきちんと全身でキャッチして、周りへと次世代へと心のこもったパスを出していく。これは、今を生きる、我々の一つの果たすべき役目ではないでしょうか。

仏法は、二千五百年以上にわたって、鍛錬に鍛錬が重ねられてきた体系です。人々の知恵の結晶といつてよいでしょう。そこには本物の言葉があります。本物の言葉は、その時すぐにピンとこなくても、心身に潜んで、いつか花咲くことになります。「叱られた恩を忘れず墓参り」の句を詠んだ人も、おそらく本物の言葉で叱られたに違いありません。ですから、「本物の言葉を聞く」「本物の言葉を語る・伝える」という体験が大切になつてくるわけです。